

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅲ		（ NGH23F ）
講義名（コード）	ビジネス資格対策Ⅰ		（ NGB22VX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル人材として世界で活躍できるように知識を身につける
全体の内容と概要	言語、マナーなど、社会人として身につけておきたいことについて学習していく
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	第1章 待遇の基本項目を確認する1	第1印象、身だしなみ1, 2、表情、目線について理解できる
2	第1章 待遇の基本項目を確認する2	あいさつ・おじぎ・姿勢、動作「歩き方」「指し示し」「物の受け渡し方」を理解できる
3	第1章 待遇の基本項目を確認する3	やってはいけない動作、動作を美しく見せる秘密について理解できる 振り返り問題1～4
4	第2章 コミュニケーションのとり方について確認する1	話し方と聴き方、待遇の言葉づかい1, 2、プラスアルファの言葉かけ、空間管理について理解できる
5	第2章 コミュニケーションのとり方について確認する2	お客様心理の理解、接客英語1・2・3を理解できる
6	第2章 コミュニケーションのとり方について確認する3	接客英語4を理解できる 振り返り問題1～5
7	第3章 敬語の基本文型を確認し、自然と出るようにする1	敬語の用法、尊敬語、謙譲語、ていねい語を理解できる
8	第3章 敬語の基本文型を確認し、自然と出るようにする2	ウチとソト、まちがえやすい敬語、クッションことばについて理解できる
9	第3章 敬語の基本文型を確認し、自然と出るようにする3	助詞の使い方、会話の方法を理解できる 振り返り問題1～3
10	第4章 企業人に求められる要素や職場のマナーについて確認する1	企業人に必要な要素、職場のルールとマナー、企業内コミュニケーション、環境整備について理解できる
11	第4章 企業人に求められる要素や職場のマナーについて確認する2	ストレス対処1・2について理解できる 振り返り問題1～3
12	第5章 仕事をする上で大切なビジネスマナーを確認する1	ビジネスマナーの意義、来客対応1・2・3、席次、電話対応について理解できる
13	第5章 仕事をする上で大切なビジネスマナーを確認する2	名刺の受け取り方・差し出し方、ビジネスメールをこんな具合にについて理解できる
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	グローバル人材ビジネス実務検定 公式テキスト
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT23E ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I A		（ NKT23EA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスで使われるメール・インフォメーション等を正確に理解し翻訳できるようにする。簡単なメールを英語で書けるようにする。
全体の内容と概要	TOEICのパート6・7の問題に取り組みながら、本文を日本語に書き換えてみる。英語でメールを書くために必要な語彙、形式を紹介する
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	従業員に宛てたお知らせの文章・送り状を理解できる	お知らせの文を翻訳する。Invoiceの見方・書き方を学ぶ
2	ホテルのウェブページ・レビューが理解できる	レビューのサマリーを日本語で書いてみる
3	電話のメッセージの読み方・書き方を理解できる	メッセージの書き方を学び、実際にメモをとってみる
4	カメラのレビューのweb ページを翻訳できる	それぞれのカメラの評価をまとめて書いてみる
5	割引広告・メールサーバー停止のお知らせを翻訳できる	日本語に翻訳してみる
6	meetingのアジェンダの読み方を理解し、作成できる	meetingのagendaを作り、staffにそれを知らせるメールを作成する
7	従業員に向けたstrategic plan e-mailが翻訳できる	e-mailを翻訳する。
8	車のディーラーからのお知らせとアンケートが理解できる	お知らせの書き方、アンケートの作り方を学ぶ
9	人事部からの職位に関するレターを翻訳できる	日本語に翻訳する
10	ツアーのitineraryを英語で作成できる	簡単なツアー日程を英語で書いてみる
11	会議の議事録を翻訳できる	会議の議事録を翻訳してみる
12	オフィススペースのレンタル広告を理解し、返信できる	オフィスのレンタル広告をみてそれに対する返信を書いてみる
13	まとめ	復習・テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	公式TOEIC Listening & Reading
参考文献・資料等	ビジネスで1番よく使う英語Eメール
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT23E ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I B		（ NKT23EB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスメールなどの翻訳ができるようになる。
全体の内容と概要	相手や場面に応じた言葉（フォーマル、カジュアル、セミフォーマル）の使い分けができるように語彙力と表現力を身につける。
授業時間外の学修	Unitごと習うビジネス特有の表現・語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	短い文を瞬間英訳できるようになる	瞬間英訳トレーニングを行いペアワークで練習する。
2	定型表現を瞬間英訳できるようになる	定型表現を学び瞬間英訳トレーニングを行う。
3	ビジネスメールの構造・書き方を理解できるようになる	メールの書き方を学ぶ。
4	【Unit1】新入社員によるメールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
5	【Unit2】企業紹介メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
6	【Unit3】仕事の役割メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
7	【Unit4】商品の紹介メールを理解できるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
8	【Unit5】情報の確認ができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
9	【Unit6】意見を述べることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
10	【Unit7】依頼をすることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
11	【Unit8】許可を得ることができるようになる	ビジネスの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Go Global
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習Ⅲ		（ NGB22M ）
講義名（コード）	プロジェクト演習Ⅲ		（ NGB22MX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	プロジェクト学習を通して課題解決の流れを理解し解決案を導けるようにする
全体の内容と概要	ビジネスにおける課題発見と課題解決するための方法を学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと流れ
2	プロジェクトの流れを理解できる	課題発見のやり方
3	プロジェクトの流れを理解できる	課題の設定方法
4	プロジェクトの流れを理解できる	課題の情報編集
5	プロジェクトの流れを理解できる	課題の解決方法
6	プロジェクトの流れを理解できる	課題をまとめる
7	KGIを理解できる	KGIとはなにか。KGIを設定する
8	KPIを理解できる	KPIとはなにか。KPIを設定する
9	KSFを理解できる	KSFとはなにか。KSFを探してみる
10	KSFを見つけることができる	ワークショップ
11	プロジェクトを立案できる	プロジェクトの立案するまでの化流れ
12	プロジェクトを立案できる	ワークショップ
13	プロジェクトを立案できる	ワークショップ
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング実践 I		（ NGB22E ）
講義名（コード）	マーケティング実践 I		（ NGB22EX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティング理論を理解し、各フレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	ワークショップを主体とし、地域に密着した企業や店舗のケーススタディを取り上げる
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	企業におけるマーケティングの重要さを理解できる	ガイダンス
2	販売とマーケティングの違いを理解できる	販売からマーケティングの概念に移行していきいている、その背景を解く
3	ニーズとウォンツの違いを理解できる	顧客の潜在的なニーズを考える。人間が感じる欠乏状態と具体的な欲求とは
4	顧客満足度とマーケティングの関係を理解できる	企業活動の目的のひとつが顧客創造であり、顧客満足の意義を考察する
5	ターゲティングについて理解できる	セグメンテーション、ターゲット、ポジショニングを使ってみる
6	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「強み」と「弱み」を考察する
7	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「機会」と「脅威」を考察する
8	SWOT分析からマーケティング戦略を導くことができる	SWOT分析からマーケティング戦略を練ってみる
9	マーケティング・ミックスを設計することができる	マーケティング4Pから各戦術を練る
10	地域密着事例を通してマーケティングの理解を深めることができる	地域密着型企業のマーケティングを考察する
11	マーケティング・プロセスの仕組みを理解できる	顧客満足獲得に向けたマーケティング活動の流れをつくる
12	マーケティング・プロセスを設計できるようになる①	ワークショップ
13	マーケティング・プロセスを設計できるようになる②	〃
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	なし
備考	なし

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2024年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	会計財務 I		（ NGB22T ）
講義名（コード）	会計財務 I		（ NGB22TX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日商簿記検定3級または初級試験合格に向けて複式簿記のシステムを学び知識を身につける
全体の内容と概要	検定試験を目標に簿記の基礎知識（科目・書式）を覚えていく 3級のテキストで初級には含まれない範囲を学習する
授業時間外の学修	授業はテキストを中心に進めて行きますが、検定試験対策はプログラムを活用していきましょう
履修上の注意事項等	3級検定日は6月9日・11月17日・2月23日の3回ですので受験日に合わせて対策を進めましょう 初級の検定は学校でいつでも受けられます

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	日商簿記初級内容の復習 練習プログラムが操作できる	初級と3級の内容のちがい 日商簿記初級練習プログラムの操作説明（今後受験者は各自練習する）
2	簿記全体の流れを理解する	簿記の意味と目的復習・会計帳簿 貸借対照表と損益計算書復習・簿記一巡の手続き
3	現金・預金出納帳を理解する	現金・小口現金、普通預金・当座預金それぞれの出納帳 現金過不足の処理
4	仕入・売上取引の処理を理解する 消費税の処理・帳簿の記入	商品売買（3分法）復習・仕入、売上取引の処理・消費税の処理 商品売買で使う証ひょう・仕入帳、売上帳の記入
5	商品有高帳のしくみを理解し 記入ができる	商品有高帳とは何か
6	売掛金・買掛金の元帳記入 貸倒れと貸倒損失の処理ができる	売掛金・クレジット売掛金・買掛金復習 売掛金、買掛金元帳の記入・貸倒れと貸倒損失の処理
7	受取・支払手形記入帳の記入 手形貸付金・手形借入金の理解	受取手形・支払手形・電子記録債権、債務復習 受取手形、支払手形記入帳の記入・手形貸付金・手形借入金とは何か
8	有形固定資産を理解し 固定資産の減価償却が計算できる	有形固定資産とは何か・有形固定資産の取得、売却の処理 固定資産の減価償却の計算・固定資産台帳
9	債権・債務について理解し 処理ができる	その他の債権と債務復習 貸付金と借入金・未収入金と未払金・前払金と前受金・立替金と預り金
10	債権・債務について理解 受取商品券・差入保証金の処理	その他の債権と債務復習 仮払金と仮受金 受取商品券の処理・差入保証金とは何か
11	復習 練習問題が解答できる	練習問題で前期の内容を復習し、解答する
12	復習 練習問題が解答できる	練習問題で前期の内容を復習し、解答する
13	復習 練習問題が解答できる	練習問題で前期の内容を復習し、解答する
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生のための簿記3級 ワークブック
参考文献・資料等	各問題集より練習問題
備考	レベルに応じて日商簿記初級・3級受験を考え進めていきます

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営戦略 I		（ NGB22G ）
講義名（コード）	経営戦略 I		（ NGB22GX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	経営戦略の意義を理解し、様々なフレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	戦略的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ 理解を深めるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営戦略で学ぶことを理解できる	ガイダンス
2	企業のピラミッド構造を理解できる	企業における経営戦略の立ち位置とは
3	ミッションと経営戦略のつながりを理解できる	企業の方針を決める経営戦略とは。またミッションとのつながりは？
4	企業戦略について事例を通して理解できる	アップルはいかにして成長してきたのか
5	企業戦略について事例を通して理解できる	トヨタはいかにして成長してきたのか
6	企業戦略について事例を通して理解できる	自国の成長企業を取り上げて考察してみる
7	企業戦略について事例を通して理解できる	GoogleやFacebookなど新時代のビジネス像について考察する
8	起業と戦略を考察できる	起業を起点に経営戦略を考えてみる
9	価格戦略が理解できる	企業における価格戦略の種類と考え方
10	組織戦略を理解できる	組織戦略とはなにか。組織の形に注目して考察してみる
11	組織戦略を理解できる	ケーススタディ
12	SDG s と戦略の関りを理解できる	SDGsを起点に経営戦略を考えてみる
13	SDG s と戦略の関りを理解できる	ケーススタディ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営コンサルタントの実務経験を活かし、経営戦略・人事労務管理・リーダーシップ論などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経済学 I		（ NGB22I ）
講義名（コード）	経済学 I		（ NGB22IX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	目的：市場経済における価格メカニズムへの理解を深める 到達目標：学生が、市場均衡が成立するメカニズムを説明できるようになる
全体の内容と概要	供給と需要の法則、市場均衡の概念を分かり易い具体例やグループワークを中心に学ぶ
授業時間外の学修	市場のニュースへの注意深い観察と日ごろの価格調査を意識させる
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要 グループワークへの積極的な参加・初歩の数学的なグラフ等の理解が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介と、経済の基本概念をわかりやすく解説する
2	経済学入門	経済学とは何か？を具体例を交えながらわかりやすく解説する
3	需要と供給の法則を理解する	需要曲線と供給曲線の基礎を実際にグラフを書かせながら解説
4	市場均衡と価格の役割を理解する	市場での価格の決定方法をロールプレイを交えて解説
5	消費者行動と効用を理解する	効用とは何か？限界効用の概念を具体例を交えて解説
6	生産と企業を理解する	企業の生産活動と生産関数を実際の企業をモデルに解説
7	完全競争市場を理解する	完全競争の概念と特徴を生徒同士でロールプレイさせる
8	独占市場と寡占市場を理解する	独占と寡占市場の違いを実例を交えて解説
9	需要の弾力性を理解する	価格弾力性、所得弾力性を実例を交えてわかりやすく解説
10	生産要素市場を理解する	労働市場と資本市場の基礎を生徒同士でロールプレイさせる
11	所得分配と格差を理解する	所得分配の理論と実際の格差問題をわかりやすく解説
12	貨幣と金融を理解する	貨幣の機能と金融市場の役割を具体例を提示して生徒に考えさせる
13	中央銀行と金融政策を理解する	金融政策のツールとその影響を身近な問題としてとらえる
14	テスト	前期テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	パワーポイント等による資料提供
参考文献・資料等	よくわかる経済学入門・各国統計等
備考	授業ではできるだけ分かり易い具体例等を示し、生徒自身に考えさせる授業（グループワークなど）をメインにしていく

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	世界情勢 I		（ NGB22K ）
講義名（コード）	世界情勢 I		（ NGB22KX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	世界には様々な国や文化があることを理解し国際感覚を身につけることを目指す
全体の内容と概要	毎回各国の情勢について学習していく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ぶるぶるわくわく旅テーマMAP1	世界遺産、①古代文明の遺跡②信仰の聖地③自然遺産について理解できる
2	ぶるぶるわくわく旅テーマMAP2	①世界のお祭り②世界のスポーツとオリンピック③世界の美術館・博物館について理解できる
3	ぶるぶるわくわく旅テーマMAP3	世界のグルメ、①主食編②各国の名物料理編について理解できる
4	データでわかる世界の国 1	世界の地形、世界の気候、世界の人口、世界の言語、世界の宗教について理解できる
5	データでわかる世界の国2	世界の所得と物価、世界の時間と時差、世界の貿易について理解できる
6	データでわかる世界の国 3	世界の資源・エネルギー、世界の農業、世界の水産業、世界の牧畜業について理解できる
7	世界の州と国を見てみよう 1	アジア編 ①中国の世界遺産・グルメ・建造物について理解できる
8	世界の州と国を見てみよう2	アジア編 ②韓国の世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
9	世界の州と国を見てみよう 3	アジア編③タイ④ベトナムの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
10	世界の州と国を見てみよう 4	アジア編⑤フィリピン⑥インドネシアの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
11	世界の州と国を見てみよう 5	アジア編⑦インドの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
12	世界の州と国を見てみよう 6	アジア編⑧イラン⑨トルコの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
13	世界の州と国を見てみよう 7	ヨーロッパ編③スペイン④ポルトガル⑤イタリアの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	地図でよくわかる世界の国大百科
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ		（ NKT22M ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ A		（ NKT22MA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	理由を相手に伝えることができる	文法（につき、を問わず、に限り） 語彙（第1回）
2	条件に合わせて希望を伝えることができる	文法（に応じ、にかかわらず、において） 語彙（第2回）
3	文法を用いて案内ができる	文法（際に、こと、Check） 語彙（第3回）
4	まとめ問題で8割正答できる	文法（まとめ問題） 語彙（第4回）
5	同じ状態について説明できる	文法（以来、をはじめ、のもとで） 語彙（第5回）
6	補足説明できる	文法（はもとより、ものだ、上で） 語彙（第6回）
7	自らの判断を相手に伝えることができる	文法（ものだ、上で、ながら） 語彙（第7回）
8	代替表現を使用できる	文法（Check、とした、きっかけ） 語彙（第8回）
9	強い意志を伝えることができる	文法（からには、やってみよう、わけではありません） 語彙（第9回）
10	完了表現をしようできる	文法（ことなく、にもかかわらず、Check） 語彙（第10回）
11	まとめ問題で8割正答できる	文法（まとめ問題） 語彙（第11回）
12	資格、用途について述べることができる	文法（として、限り、ざるを得ない） 語彙（第12回）
13	不確定要素を含んだ言い方ができる	文法（というものではありません、はともかく、かねません） 語彙（第13回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY！日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ		（ NKT22M ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ B		（ NKT22MB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	江島 香菜子	時間数	30
成績評価教員	江島 香菜子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス会話レベルの日本語能力の習得
全体の内容と概要	CEFR C2レベルの日本語の読解・聴解の学習
授業時間外の学修	日常生活で意識して使う
履修上の注意事項等	資格試験に申し込むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	読) 内容が理解できるようになる 聴) 模擬試験 1	中文を読む(練習55.56) 模擬試験(問題1) +M79:AD99E11M79:AD87
2	読) 主張が理解できるようになる 1 聴) 模擬試験 1	長文を読む(例題29.練習57) 模擬試験(問題2)
3	読) 主張が理解できるようになる2 聴) 課題が理解できるようになる	長文を読む(練習58.59.60) 課題を理解する(例題1)
4	読) 主張が理解できるようになる3/ 統合理解ができるようになる1 聴) ポイント理解ができるようになる	読) 長文を読む(練習61)/比較して読む(例題30.31) 聴) ポイントを理解する(例題2)
5	読) 統合理解ができるようになる2 聴) 概要が理解できるようになる	読) 比較して読む(練習62.63.64) 聴) まとまりのある話を聞いて、主題を判断する(例題3)
6	読) 統合理解ができる3/情報検索ができるようになる1 聴) 即時応答ができるようになる	読) 比較して読む(練習65)必要な情報を探す(例題32.33) 聴) ふさわしい答え方を判断する(例題4)
7	読) 情報検索ができるようになる2 聴) 統合理解ができるようになる	読) 必要な情報を探す(練習66.67.68) 聴) 情報整理しながら聞く(例題5.6)
8	読) 情報検索ができるようになる3 聴) 音声の特徴が理解できるようになる	読) 必要な情報を探す(練習69.70) 聴) 似ている音を聞き分ける(練習1)/音の変化や縮約形を正しく判断する(練習2-1.2-2)
9	読) 模擬試験1 聴) 最初の文が理解できるようになる1	読) 模擬試験(問題1~4) 聴) 会話の状況や主題を聞き取る(練習1-A.B.C)
10	読) 模擬試験2 聴) 最初の文が理解できるようになる2	読) 模擬試験(問題5~7) 聴) 会話の状況や主題を聞き取る(練習1-D.E)
11	読) 模擬試験3 聴) 返事の文が理解できるようになる	読) 模擬試験(問題8~11) 聴) 返事の文を聞いて、気持ちを判断する(練習2)
12	N1 読) 文章の仕組みを理解できるようになる1 聴) 課題理解ができるようになる1	読) 他のものと比べる(例題1.練習1.2) 聴) すべきことを考える(例題1-1.2/練習1-1.2)
13	読) 文章の仕組みを理解できるようになる2 聴) 課題理解ができるようになる2	読) 他のものと比べる(練習3.4) 聴) 優先される課題を判断する(例題2.練習2)
14	前期のまとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	【読解】 完全マスターN2/完全マスターN1 【聴解】 完全マスターN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT22O ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT22OB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	適切な言い回しを学ぶことで語彙力と文法の知識を獲得し資格試験取得を実現する
全体の内容と概要	語彙については、テスト形式で実践的に習得する。文法については、形式と用法を用例を通じて習得する
授業時間外の学修	実力向上には特に復習が重要
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「ソフトウェアエンジニア」から学ぶ教科書について理解できる	TRY: 教科書の構成と今後の授業の進め方を説明する。文字語彙についても教科書の構成と授業の進め方を説明する。それぞれ、項目について授業を開始する
2	社外の人との簡単な受け答えができる①	TRY: 「・・・お見えになりました」「・・・願えますか」「申し上げたい」の用法を習得する 文字語彙: 第29回の問題を習得する
3	社外の人との簡単な受け答えができる②	TRY: 「・・・ればと思います」「・・・につきましては」の用法を習得する 文字語彙: 第30回の問題を習得する
4	実践的な問題に解答できる	TRY: 8章のまとめ問題を習得する。 文字語彙: 第1回から3回の問題を習得する
5	身近な話題について友達と自然な表現を使って話せる①	TRY: 「・・・のなんのって」「・・・たて」「・・・ったら」の用法を習得する 文字語彙: 第4回から6回の問題を習得する
6	身近な話題について友達と自然な表現を使って話せる②	TRY: 「・・・ようになっている」「・・・わけだ」「・・・どころか」の用法を習得する 文字語彙: 第7回から9回の問題を習得する
7	自然な表現ができる①	TRY: 「・・・ようじゃ」の用法を習得する。食べ放題(2)の文章がわかる 文字語彙: 第10回から12回の問題を習得する
8	自然な表現ができる②	TRY: 「・・・ぶってもしようがない」「・・・に限って」「・・・ことだよ」の用法を習得する。文字語彙: 第13回から15回の問題を習得する
9	実践的な問題に回答できる①	TRY: 「・・・という」「・・・ところだった」「・・・くらいなら」の用法を習得する 文字語彙: 表記第1回から3回の問題を習得する
10	実践的な問題に回答できる②	TRY: 「・・・ました」の用法を習得する。第9章のまとめの問題を解く 文字語彙: 表記第4回から6回の問題を習得する
11	エッセーを読んで、筆者の考え方や感じ方が理解できる①	TRY: 「・・・ものがある」「・・・まい」「・・・につけ」の用法を習得する。 文字語彙: 表記第7回から9回の問題を習得する
12	エッセーを読んで、筆者の考え方や感じ方が理解できる	TRY: 「・・・わりには」「・・・か・・・かのうちに」「・・・げ」の用法を習得する 文字語彙: 表記第10回から12回の問題を習得する
13	実践的な問題に回答ができる	TRY: 「・・・やら・・・やら」「・・・かと思うと」の用法を習得する。10章のまとめの問題を解く。 文字語彙: 表記第12回から15回をする
14	前期まとめと解説	前期テストを実施する
15	前期まとめと解説	テスト結果をフィードバックする

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY文法から伸ばす日本語日本語能力試験N2 日本語パワードリルN2文字・語彙,ドリル&ドリルN2文字・語彙、短期合格N1N2語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	貿易商務論 I		（ NGB22C ）
講義名（コード）	貿易商務論 I		（ NGB22CX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	国内の売買取引を基本にして、国境を跨った海外との売り買いの取引で、気をつけることを身につけ、実際の輸出入取引を理解し、個人でも実践できることを目指す。実務検定を目指す
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	国内の商取引の仕組みを理解し説明できる	オリエンテーションとして、授業の進め方を説明。国内の商取引手続きについてグループで検討し発表する。
2	国内売買取引契約を理解し説明できる	国内売買取引契約について説明する。グループで、どんなリスクがあるか検討し発表する。
3	貿易取引と国内取引の違いを理解し説明できる	貿易取引契約について説明する。グループで、国内取引と貿易取引の違いを検討し発表する。
4	貿易取引の関係者を説明できる	貿易取引の関係者を説明する。グループで国内取引の関係者と比較して貿易取引で特に必要になる関係者と役割を検討し発表する。
5	貿易取引の流れを説明できる	貿易取引の全体的な流れを説明する。グループでリスクを検討し、発表する。
6	貿易取引の用語を説明できる	貿易取引の用語を説明する。グループで、よく理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
7	貿易取引の用語を説明できる	グループで理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
8	輸出取引の手続きを説明できる	輸出取引について説明する。グループで、輸出に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
9	輸入取引の手続きを説明できる	輸入取引について説明する。グループで、輸入に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
10	ものの移動、書類の移動、金の移動があることを説明できる	貿易取引を「もの」「書類」「カネ」に着目して説明する。グループで、流れを図解して発表する。
11	信用状の仕組みを説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
12	信用状の記載事項を説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
13	テスト前の総復習	貿易取引の要点と用語について復習し、知識の定着を行う
14	まとめとテスト	貿易取引の要点と用語を含むテストを行う
15	フィードバック	結果の説明

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「めざせ貿易実務検定」「貿易のしくみ」
参考文献・資料等	必要に応じて、コピー等を配布します。
備考	グループ学習が多いので積極的な参加が必要